

平成 26 年度第 1 回診断評価等基準委員会議事録

開催日時：平成 26 年 4 月 17 日（木）午前 8 時 00 分

開催場所：国立京都会館 5 階 「555-B」

出席者：紺野慎一（担当理事）、竹下克志（委員長）、笠井裕一、金森昌彦、寒竹 司、清水敬親、田中信弘、種市 洋、橋爪 洋、細野 昇、松永俊二（委員）、川上 守、高橋和久、福井 充、松本守雄、宮本雅史（アドバイザー）
欠席者：金山雅弘（委員）

議題

1. JOACMEQ、JOABPEQ 健常者調査について

JOACMEQ 健常者調査について（担当：田中委員）

下記のとおり、JOS に掲載されたことが報告された。

Tanaka N, Konno S, Takeshita K, Fukui M, Takahashi K, Chiba K, Miyamoto M, Matsumoto M, Kasai Y, Kanamori M, Matsunaga S, Hosono N, Kanchiku T, Taneichi H, Hashizume H, Kanayama M, Shimizu T, Kawakami M. An outcome measure for patients with cervical myelopathy: the Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ): an average score of healthy volunteers. J Orthop Sci. 2014 Jan;19(1):33-48.

JOABPEQ 健常者調査（担当：橋爪委員）

JOS に投稿した論文を現在 Revise 中であること、Reviewer から指摘された主な点は、1) 調査対象に「腰痛があっても代替医療を受けている者を含む」という包括基準が「健常者」の定義と矛盾するのではないか、2) 著者らは平均値とパーセンタイル値のいずれを基準値として提案しているのか、という 2 つであったこと、上記への回答として、1) 日本では代替医療を受ける人はほとんどの場合軽症なので、整形外科医から見て候補者が医学的な治療を要せずに障害のない日常生活を送れていると判断した場合は除外しなかった、2) 福井アドバイザーの見解として JOABPEQ 得点は正規分布しないので、パーセンタイル値を標準値、平均値（プラス 95% 信頼区間）を参考値とするのが適切である、との方針が提案され、出席者の了解を得た。

2. プロジェクト研究進行状況について

「腰椎変性すべり症に対する手術治療の有用性に対するJOABPEQを用いた多施設前向き研究」(担当：寒竹委員)

本年3月末で症例のエントリーが終了し、固定群53例、除圧群31例が登録されたことが報告された。

「腰椎変性側弯症の健康関連QOL低下に及ぼすX線学的(脊柱変形)パラメータを検討する多施設横断研究」(担当：種市委員)

以下のとおり報告された。

- 1) 現在までに125例(予定は1施設12例×18施設=216例)は調査が終了し、獨協医大整形外科医局に質問票と画像データが送付された。前回委員会から30例が上積みされ、送付された分のODIとJOABPEQの解析については終了している。
- 2) 画像データは東洋検査センターに送付し、計測中である。画像データのコピーは獨協医大整形外科医局にも残しており、終椎の決定などを東洋検査センターと連絡を取りながら計測を行っている。送付して計測が完了したものが52例である。
- 3) データ未完の施設(参加18施設中、6施設が完遂、12施設が未完)とは、今後協議の上、症例収集のスケジュール等を調整する。
- 4) 送付された画像データの中に、臥位のみのもものや、側面像で大腿骨頭中心が欠けていて計測不可能なものがあるため、今後個別に連絡をとって対応を検討する。
- 5) 本学術集会(第43回JSSR)のパネルディスカッションにて、脊柱変形パラメータ計測の信頼性について報告する。

「術者によって頸椎症の手術成績(JOACMEQ)に差があるか」(担当：細野委員)

参加5施設(術者7名)での症例エントリーが終了し、今後予算が通り次第、データ入力作業を行う予定であることが報告された。

3. その他

福井アドバイザーより、5月に神戸で開催される第87回JOA総会のシンポジウム、新しい治療成績評価基準—運用の実際と今後の展望—にて、「患者立脚型

治療評価の必要性」という演題名で、JOABPEQ/JOACMEQの必要性について発表する旨、報告された。

4. 次回予定について

現行のメンバーでの委員会活動は今回を以て終了となる。次回開催の予定日（8月、あるいは10月の基礎学会開催時）については、新メンバーが理事長に承認された後に検討することとなった。